

SDGsを
マンガで考えよう



戸塚区から 世界を変える 方法

SDGs GUIDE BOOK

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧乏をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさも守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナリシップで目標を達成しよう 	

SDGsって何?

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない」ことを誓った、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。

2015年の国連総会において、全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。

2030年を達成年限とし、17の目標と169のターゲットから構成されています。

17の目標は、①貧困や飢餓、教育など、いまだに解決を見ない社会面の開発計画、②エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消など、全ての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済計画、③地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境計画、といった世界が直面する課題を網羅的に示しています。

SDGsは、これら「社会」、「経済」、「環境」の3側面から捉えることのできる17の目標を、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。



2015年の国連総会で採択時の
プロジェクションマッピング

SDGs未来都市・横浜

横浜市は2018年に国から「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されています。SDGs未来都市・横浜の実現に向け、ヨコハマSDGsデザインセンターが中心となり、身近な課題解決を世界の課題解決につなげる様々な取組を、市民・事業者の皆様との連携により進めています。

2030年にSDGsを達成するために、取組の更なる加速が求められる中、SDGs達成及び脱炭素社会の実現を目指して、環境・経済・社会的課題の統合的解決に取り組んでいます。

戸塚区役所ではこれまでに、区民の皆様への環境活動を推進することを目的に、環境について学べる講演会や、環境に関するパネル展等を継続して実施してきました。事業の実施にあたっては、地域団体、企業、大学等の皆様と連携して取り組んでおり、今後もSDGsの視点を踏まえた取組を進めていきます。



戸塚区とSDGs

戸塚区役所では、区民の皆様一人ひとりがSDGsや脱炭素化に取り組む機運を醸成し、2030年のSDGs達成や、2050年の脱炭素社会の実現に向けた環境行動を生活に定着させることができるよう、様々な取組を行っています。

SDGs知り隊・教え隊 ～区役所・エフエム戸塚共同企画～

地域からSDGsを盛り上げ、地元の絆を深める取組として、自分達の住んでいる街にある企業のSDGsの取組を、子供達が取材(インタビュー)し、その内容をエフエム戸塚で放送することで、地域全体でSDGsへの意識を醸成しています。



環境・SDGsパネル展

区民の皆様にも、環境問題やSDGsへの関心を持ってもらう取組として、パネル展を実施しています。

- 6月の環境月間には、地球温暖化や気候変動に関する環境パネル展を実施しています。
- 連携する企業・大学等のSDGsの取組を紹介するSDGsパネル展を実施しています。



区役所でのSDGsパネル展の様子

未来を担う子供達への普及啓発

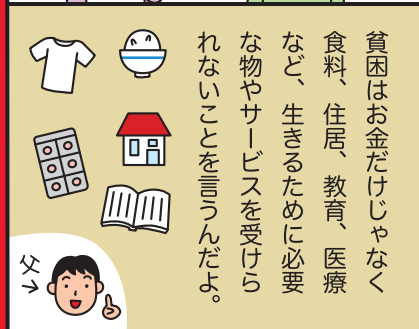
戸塚区では、未就学児から高校生まで、切れ目のない普及啓発を実施しています。

- 未就学児には、木材を使用したワークショップや紙芝居を通じて、木の大切さや温暖化対策を啓発しています。
- 小・中学生には、「SDGs知り隊・教え隊」の実施や燃料電池自動車を活用した啓発を実施しています。
- 高校生には、探究学習の支援やSDGsに関する講義による啓発を実施しています。



区内高校でのSDGs講演の様子

貧困ってどんなことだろう？



目標1

貧困をなくそう

目標1のターゲットの主な内容

- 貧困をあらゆる場所で終わらせる。
- あらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。

社会の貧困について

- 日本では約9人に1人の子供が平均的な生活水準の半分未満で暮らす「相対的貧困」の状態にあるとされています。
- ひとり親家庭では、半数近い44.5%の家庭が貧困であるとされています。

戸塚地域の取組

社会福祉協議会の取組

横浜市社会福祉協議会では、フードバンクかながわでお米が枯渇している状況を受け、「社協職員と社会福祉施設によるお米一合運動」を実施し、当初の目標を大きく上回る寄付を集めることができました。

また、取組を進める中で、市役所や地域住民の方々など、多くの共感と賛同を得る素晴らしい取組となりました。

社会福祉協議会では皆様の支援による寄付も受け付けています。



日本でも飢餓があるの？



2 飢餓をゼロに



目標2

飢餓をゼロに

目標2のターゲットの主な内容

- 全ての人々、特に立場の弱い人々が一年中安全かつ栄養のある食事を十分得られるようにする。
- 食料を生産する人たちの、「作る力」を増加させ、持続可能な生産システムを確保する。

社会の飢餓について

- 世界では約7.7億人が飢餓に苦しんでおり、これは世界人口の10人に1人の割合です。
- 日本でも毎日お茶碗1杯分の食べ物を国民一人が捨てていると言われていています(食品ロス)。

戸塚地域の取組

▶▶ 特定非営利活動法人フードバンク浜っ子南
～安心が幸せにつながる食支援ネットワーク～

フードバンク浜っ子南では、困っている人への食支援を戸塚区内で行っています。

フードパントリー事業

会場ごとに毎月1回、お互いに顔を見ながら食品・食材を手渡ししています。

フードデリバリー事業

こども食堂、児童福祉施設などこども支援団体に食材・食品をお届けしています。

フードドライブ事業

家庭や企業などの消費しきれない食品の寄付を募り、フードパントリー事業で活用しています。



健康に生活するということ



目標3

すべての人に健康と福祉を

目標3のターゲットの主な内容

- 病気や事故で亡くなる人を減らし、全ての人々が健康に暮らせる社会を目指す。
- 新生児及び5歳未満時の予防可能な死亡を根絶する。
- あらゆる伝染病を根絶するとともに、感染症に対処する。

社会の健康について

- 世界では年間約520万人もの子供が5歳になるまでに亡くなっています。
- 世界では、1日に810人もの妊産婦が命を落としています。
- 日本では世界で一番平均寿命が長く、2040年には3人に1人が65歳以上の高齢者になり、医療や介護の負担が増えることが予想されています。

戸塚地域の取組

保健活動推進員さんによる健康チェック

保健活動推進員は戸塚地域の健康づくりの推進役、行政の健康づくりのパートナー役として、戸塚区福祉保健センターや地域の団体等と連携して、健康づくりに関する様々な活動を行っています。

戸塚区内各地区のイベントやお祭りでは、血管年齢の測定や足指力の測定などの「健康チェック」を実施しています。



教育って大切だね



4 質の高い教育をみんなに



目標4

質の高い教育をみんなに

目標4のターゲットの主な内容

- 全ての子供が男女の区別なく、無償かつ公正で質の高い小・中学校教育を修了できるようにする。
- 教育におけるジェンダー格差をなくし、弱い立場の人があらゆるレベルの教育や職業訓練を平等に利用できるようにする。

社会の教育の実態

- 世界では10人に1人の子供が労働をさせられ、勉強の機会を失っています。
- 家庭の事情で子供が家族の世話を担わざるをえないヤングケアラーは、自分の時間が取れないことで、学業への支障が問題となっています。

戸塚地域の取組

▶▶ ワークショップを通じた木育講座

戸塚区では、友好交流協定を締結する北海道下川町の木材を使用したイスやバターナイフ作りのワークショップを区民まつりや区内の市立保育園等で実施しています。

ワークショップを通じて、木の大切さや環境問題を学ぶことで、脱炭素社会の実現に取り組んでいます。



ジェンダー平等ってどんなこと？



5 ジェンダー平等を
実現しよう



目標5

ジェンダー平等を 実現しよう

目標5のターゲットの主な内容

- 世界中のあらゆる形の性別による差別をなくす。
- 男女が平等に機会を得て、能力を発揮できる社会をつくる。

ジェンダーの問題について

- 世界では、学校に通えない子供の割合は、男の子よりも女の子の方が高い結果となっています。
- 各国における男女格差を測るジェンダーギャップ指数で、日本は146か国中125位と低い結果となっています(2023年)。

戸塚地域の取組

▶▶ 男女共同参画センター横浜の取組

戸塚駅徒歩5分にある男女共同参画センター横浜では、すべての人の尊厳が守られ、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる社会づくりを目指して、活動を展開しています。

- ・情報ライブラリでのおすすめ本の展示
ジェンダーについてくわしく学べる本のほか、ひとりひとりの暮らしに役立つ本を揃えています。
- ・ジェンダー平等についての出張授業
人権学習や探究授業の中で出張授業や講演を行っています。



安全な水を提供する



6 安全な水とトイレを世界中に



目標6

安全な水とトイレを世界中に

目標6のターゲットの主な内容

- 全ての人々が安全な水とトイレを利用できる環境をつくり、持続可能な管理を行う。
- 安定した水の供給を確保するとともに、汚染を減らし水質を改善する。

安全な水について

- 世界中で、水道水を安全に飲める国は日本を含めて9か国だけです。
- 世界では、約7億人の方がトイレのない生活をしています。

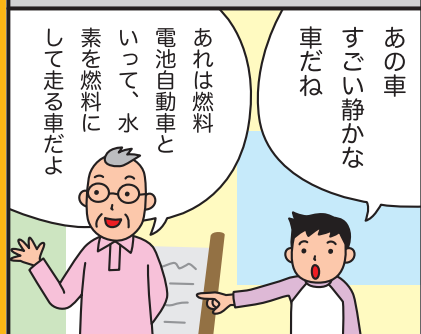
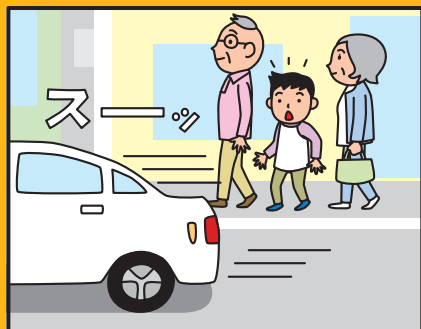
戸塚地域の取組

▶▶ 災害時給水所

災害などで断水した時に、誰でも飲料水を得られる場所が「災害時給水所」です。水道局では、配水池、災害用地下給水タンク、緊急給水栓及び耐震給水栓を災害時給水所として整備しています。いざというときのために、地域防災拠点とともに、身近な戸塚区内の災害時給水所を確認しておきましょう。



次世代自動車ってすごい



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



目標7

エネルギーをみんなに そしてクリーンに

目標7のターゲットの主な内容

- 全ての人々が手ごろな価格で信頼できるエネルギーをいつでも使えるようにする。
- 再生可能な自然由来のエネルギーを使う社会を目指す。

再生可能エネルギーへの道

- 日本の再生可能エネルギーの活用割合は20%と主要国の中では高くありません。
- 費用をかけなくても太陽光パネルを自宅や社屋に設置して再生可能エネルギーを利用できる仕組みが広がっています。

戸塚地域の取組

▶▶ 未来につながる燃料電池自動車

戸塚区役所では、2050年の脱炭素社会の実現に向けて、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)排出量が少なく、環境に優しい次世代自動車を、公用車として導入しています。

燃料電池自動車は、車載の水素と空気中の酸素を反応させて、燃料電池で発電し、その電気でモーターを回転させて走る自動車です。



働きがいてどんなこと?



8 働きがいも経済成長も



目標8

働きがいも経済成長も

目標8のターゲットの主な内容

- 全ての人働きがいのある人間らしい仕事を安心してできる社会を目指す。
- 適切な雇用の創出や企業などを通じて、持続可能な経済成長を目指す。

世界と日本の労働の現状

- 世界では、5～17歳の働く子どもが約1億6,000万人おり、安い賃金かつ悪条件な労働環境で働いています。
- 日本では、建設・医療・運輸業界等で人手不足が続き、事業が継続できないリスクがあります。

戸塚地域の取組

▶▶ 東戸塚地域活動ホームひかり

「障害者地域活動ホーム」は、在宅の障害児・者及びその家族等の地域生活を支援する拠点として、横浜市が独自に設置している施設です。

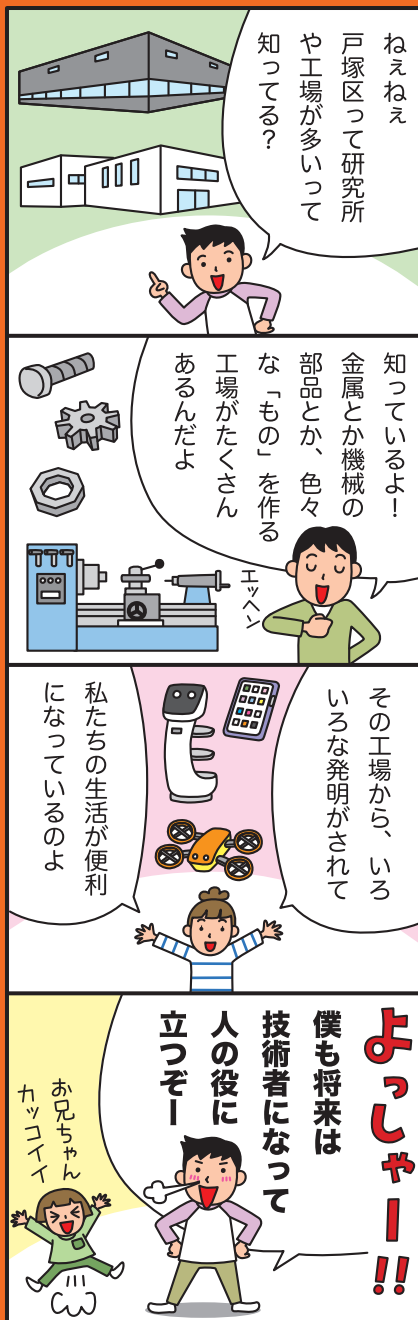
「東戸塚地域活動ホームひかり」では、施設内で障害のある方が作ったパンや自主製品の販売を行っています。

また、施設では様々なイベントを実施するほか、木のおもちゃや遊具が用意されたおもちゃ文庫があります。

施設は、障害のある方と地域の方の交流の場となっています。



社会課題を技術が解決する時代へ



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



目標9

産業と技術革新の 基盤をつくらう

目標9のターゲットの主な内容

- 経済発展と豊かな生活を支える社会インフラを整備し、イノベーションを推進する。
- 研究開発を進めて、全ての国の産業における技術能力を向上させる。

技術で解決する社会課題

- 再生エネルギー技術により脱炭素化を推進していきます。
- 気象の予測による防災力を強化していきます。
- AIによる農業の効率化で職業自給率を向上させます。

戸塚地域の取組

▶▶▶ 戸塚ものづくり自慢展

戸塚区には、地域に根差して市内経済を支える「ものづくり(製造業)企業」がたくさんあります。

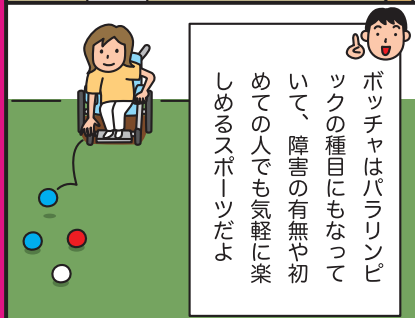
毎年、開催している「戸塚ものづくり自慢展」では、様々な「ものづくり企業」の高度で特殊な技術や環境に配慮した製品づくりなどを御紹介しています。



誰もが気持ちよく過ごせる多様な社会へ



こんど
スポーツセ
ンターで色々な
スポーツ体験会
があるみたい
このポッチャ
っていうの
やってみないな



ポッチャはパラリンピ
ックの種目にもなっ
ていて、障害の有無や初
めての人でも気軽に楽
しめるスポーツだよ



あそこを
ねらってみて

体験当日



楽しかったよ。
車いすの人や
色々な人がいたね
誰でも平等に
楽しめるスポ
ーツって魅力的
だよ

また
行こう!!

10 人や国の不平等
をなくそう



目標10

人や国の 不平等をなくそう

目標10のターゲットの主な内容

- 年齢、性別、障害、人種、民族、宗教や経済的地位などに関わらず、全ての人が平等に生活できる社会をつくる。

身近にある多様性と課題

- 世界の富は1%の裕福な人に集まっていて、残りの99%の人との格差が広がっている。
- フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」をいいます。

戸塚地域の取組

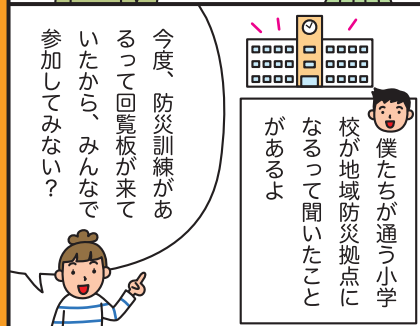
▶▶ 戸塚スポーツセンター

戸塚スポーツセンターでは、各地域でスポーツ活動に取り組んでいる“スポーツ推進委員”や“さわやかスポーツ普及委員会”と一緒に、性別や障害の有無にかかわらず、誰もが一緒になって楽しめるニュースポーツ「ヨコハマさわやかスポーツ」を推進しています。

各地域でも実施できるように、ポッチャ、ペタンク、わなげ、グラウンドゴルフ、インディアカ等の用具をスポーツセンターで貸し出しています。(事前予約制、無料)



地域みんなで作る
「安心できるまち」



11 住み続けられるまちづくりを



目標11

住み続けられるまちづくりを

目標11のターゲットの主な内容

- 全ての人にとって安全で安心に生活できるまちづくりを目指す。
- 都市を、安全で災害に強く、ずっと住み続けられる場所にする。

身近に迫るリスク

- 全世界の人口は約半数が都市部に集中しており、大気汚染などの環境への影響が懸念されています。
- 人口減少と過疎化により、鉄道やバスの廃線、商店の閉店などが進んでいます。

戸塚地域の取組

▶▶ 地域防災拠点訓練

地域防災拠点とは、地震などにより住む家を失い又は破損等により居住することができなくなった地域の住民が避難し、一定期間生活する指定避難所です。戸塚区では、35箇所の小中学校が地域防災拠点となっています。

地域防災拠点は、避難所としてだけでなく、情報の受伝達基地、防災資機材等物資の備蓄基地としての機能を備えています。

発災時には、自治会・町内会を中心とした地域防災拠点運営委員会の住民が中心となって拠点の運営を行うため、日頃からマニュアルを作成し、防災訓練を実施するなど、地域防災力の向上に努めています。



資源を有効活用しよう



12 つくる責任
つかう責任



目標12

つくる責任
つかう責任

目標12のターゲットの主な内容

- 食品ロスを始めとする廃棄物の削減を進める。
- つくる側も消費する側も、資源を大切にす循環型社会を目指す。

消費社会の実態

- 毎年、世界で生産される食料の3分の1が消費されずに捨てられています。
- ごみを出さずに再利用し、循環させる仕組みを目指す「サーキュラーエコノミー」が世界で注目されています。

戸塚地域の取組

▶▶ 食品ロス削減レシピ

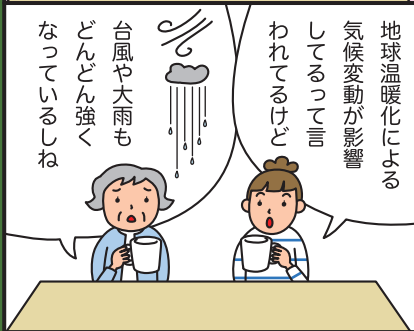
戸塚区では、大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、少しでも食品ロスを減らすため、戸塚区環境事業推進委員と戸塚区消費生活推進員の皆さんが、戸塚区食品ロス削減レシピを考案し、ホームページで公開しています。



遠い国や未来の話ではなく



今年の夏も
暑い日が
多かった
よね



地球温暖化による
気候変動が影響
してるって言
われてるけど
台風や大雨も
どんどん強く
なっているしね



地球温暖化が
進んで、農作物
が取れなくなっ
たり、漁獲量が
減ったりして
私たちの生活にも
色々な影響が
出ているみたい



地球温暖化が
家計を直撃
出来ることを
考えて、一人ひとり
が自分事として取組
むことや、仲間と一
緒に活動を広げるこ
とが大切だね



目標13

気候変動に 具体的な対策を

目標13のターゲットの主な内容

- 地球温暖化による気候変動が引き起こす様々な問題に迅速な対策を進める。
- 気候変動に対応する人材や社会の能力向上のための教育や制度を改善する。

気候変動の影響と課題

- 強い台風や豪雨、干ばつや山火事が深刻になっています(自然災害の増加)。
- 海面が上昇し、沿岸部の浸水・浸食も深刻になっています。

戸塚地域の取組

▶▶ とつかエココーディネーター協議会

戸塚区には、区民の皆様への環境啓発活動をしている「とつかエココーディネーター協議会」があります。

主に、SDGsや省エネに関する講座や、環境に配慮した取組を行っている企業、施設の見学会等を実施しています。

また、戸塚区と共催で講演会やパネル展を開催するほか、柏尾川の清掃活動など、区内で環境活動を推進しています。





14 海の豊かさを
守ろう



目標14

海の豊かさを 守ろう

目標14のターゲットの主な内容

- きれいな海と魚などの海洋資源を保全し、持続可能な方法で利用する。
- プラスチックごみなどの人間の活動による海の汚染を減らす。

海の変化と課題

- 2050年には、海に捨てられるプラスチックごみの量が魚の量を上回ると予測されています。
- MSC認証(海のエコラベル)とは、水産資源と環境に配慮し、適切に管理された持続可能な漁業で獲られた水産物の証明です。

戸塚地域の取組

▶▶ 戸塚の川をきれいにする地域団体

戸塚区には、柏尾川や阿久和川など多くの川が流れています。その多くは、地域団体の皆さんや、水辺愛護会の皆さんによる清掃活動や魅力づくりのイベントにより、きれいに保たれ、地域住民の憩いの場となっています。

柏尾川魅力づくりフォーラム

柏尾川周辺の企業、団体、教育機関によって構成され、清掃活動やこいのぼりの掲揚など、柏尾川の保全と魅力づくりを行っています。

戸塚区水辺愛護会

河川や水辺施設の環境を良好に保つことで、快適に水辺とふれあい、親しめるよう地域住民又は自治会・町内会、商店街、企業などの有志により構成された、美化活動等を自発的に行う団体です。

戸塚区内には、15団体が各河川で活動しています。(令和6年1月現在)



生物を守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



目標15

陸の豊かさも守ろう

目標15のターゲットの主な内容

- 森林破壊を減らし、森林を再生して、砂漠がこれ以上増えないようにする。
- 陸の生態系を守り、生物多様性が失われることを防ぐ。

陸の変化と課題

- 世界では、毎年日本の面積の20%に相当する森林が失われています。
- 陸上の動植物・昆虫の80%が森林をすみかとしています。
- FSC認証とは、持続可能な森林活用・保全を目的として誕生した、「適切な森林管理」を認証する国際的な制度です。認証を受けた森林から生産された製品にはFSCロゴマークがつけられます。

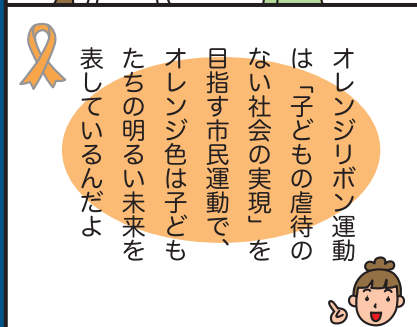
戸塚地域の取組

▶▶ とつか花さかくらぶ

戸塚区では、区内にある4つの駅(戸塚、東戸塚、踊場、舞岡)で駅周辺や道路・河川・公園などを花できれいにする「とつか花さかクラブ」があります。花さかクラブは、自治会・町内会やハマロードサポーター、公園愛護会、企業、商店会など、地域の実情に応じて構成されており、定期的に花植えや植栽の維持管理を行い、周辺の歩行者や地域住民を花で迎えています。



あらゆる人の平和について考える



16 平和と公正をすべての人に



目標16

平和と公正をすべての人に

目標16のターゲットの主な内容

- 地球上からあらゆる暴力と暴力による死をなくす。
- 虐待、搾取、人身取引など、子供に対するあらゆる形の暴力をなくす。

現代社会の課題

- 世界では、5分に1人の子供が暴力によって亡くなっています。
- 紛争や迫害から逃れた難民や避難民は約7,000万人にのぼります。

戸塚地域の取組

▶▶ 「子どもの権利」の啓発

子どもの権利とは、大きく分けて4つの権利があります。

- ・生きる権利
- ・育つ権利
- ・守られる権利
- ・参加する権利

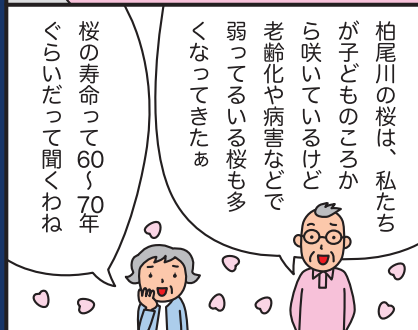
子どもも大人も互いに尊重しあえる環境の中で、子どもたちが安心して過ごしなが、健やかに成長することのできる社会を作るため、様々な啓発活動を行っています。



1人よりも仲間と



柏尾川の桜並木



17 パートナースHIPで目標を達成しよう



目標17

パートナーシップで目標を達成しよう

目標17のターゲットの主な内容

- SDGsの達成を目指すために世界中の国や人が協力する。
- 最も効果的なパートナーシップを見つけ、目標達成を推進する。

パートナーシップの実態

- それぞれの国が、国内の政策の中にSDGsの「目標達成」を盛り込み、国の予算を使うようにします。
- 北海道下川町と横浜市戸塚区が連携し、環境教育や森づくりを進めます。

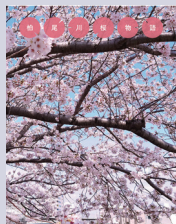
戸塚地域の取組

▶▶ 柏尾川の桜

桜は戸塚区のシンボルとして、「区の花」に指定しており、中でも柏尾川桜並木の会が時期には、多くの人で賑わう戸塚区の名所の一つです。

現存する約350本の桜の多くは昭和の時代に植樹されたものであり、老齢化や病害等により、樹勢の低下や倒木、枝折れ等が懸念されています。

戸塚区では、令和6年度から地域の皆さんと一緒に桜の保全・再生に向けて検討を始め、戸塚区の代表的な景観である「柏尾川桜並木」を将来に引き継いでいきます。



時を超えた景色、未来へつぎ



北海道下川町との交流

戸塚区と北海道下川町は、地域イベントでのカーボン・オフセット等をきっかけに、平成23年に戸塚区役所・戸塚区川上地区・北海道下川町の3者で友好交流協定を締結しました。

協定締結後は、小学生を相互に受け入れる青少年交流や、イベントで下川町の間伐材を使用した工作教室の実施、区民まつりで下川町ブースを設け、特産品を販売するなど、地域間・行政間の交流を行い、目標17のパートナーシップによる取組を体現しています。

北海道下川町は、横浜市と同じく平成30年にSDGs未来都市に選定されています。同町の先導的な取り組みは高く評価されており、第1回ジャパンSDGsアワード(平成29年)では、内閣総理大臣賞を受賞しています。



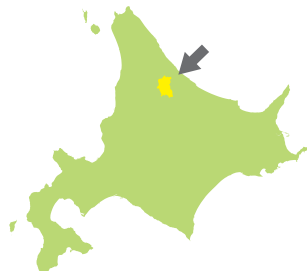
夏は下川町の子供達が戸塚に、冬は戸塚の子供達が下川町を訪れています。



区民の皆様が参加してキーホルダーや柏尾川の桜並木に掛けるナンバープレートづくりをしています。

北海道下川町の概要

下川町は北海道の北部、旭川市から北に約100kmに位置し、町の面積(64,420ha)のうち、約90%が森林という豊かで美しい自然と森林資源に恵まれた地域です。また、冬は稀にマイナス30℃になることもあり、11月から3月頃まで降雪が続く積雪寒冷地です。



SDGsと地産地消

なぜ地産地消がSDGsに貢献するの？

鮮度の良い状態で食べることができ、食品ロスの削減につながる(目標12)

地産地消の大きな魅力は、地元の生産者さんが愛情込めてつくる、おいしい農産物などを鮮度の良い状態で食べられることです。

また、輸送に費やす時間も短縮されるため、販売期間も長く設定でき、食品ロスの削減にもつながります。

12 つくる責任
つかう責任



エネルギー消費を抑え、気候変動の対策につながる(目標13)

地元でとれたものを地元で消費するため、地域外への輸送に必要なエネルギーを削減し、CO₂の排出を減らすことができるため、気候変動の対策につながります。

13 気候変動に
具体的な対策を



陸や海の豊かさを守ることにつながる(目標14・目標15)

地元で育てた農産物や魚介類を必要な分だけ地元で消費することは、地域外への販売のための「農地作りによる森林伐採」や「海洋資源の乱獲」の必要がなくなるため、海や陸の豊かさを守ることにつながります。

14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう



地産地消をSDGsとともに考える

地産地消は食べ物に限ったことだけではなく、太陽光発電などの再生可能エネルギーを活用して、地域で使うエネルギーを地域でつくり出す「エネルギーの地産地消」が進められているなど、地産地消とSDGsは様々な分野で深く関係しています。

地産地消の取組は、環境に優しいだけではなく、生産者や消費者が互いに恵み合う関係をつくり出し、持続可能な地域社会の構築につながります。

地元の恵みを楽しみながら、SDGsを考えてみてはいかがでしょうか。

戸塚区の取組:地産地消パンフレット

戸塚区では、区内の直売所や地産地消グルメを紹介する、「おいしいものをつか地産地消ガイドブック」を発行しています。是非、お手にとっていただき、戸塚区の地産地消に触れてみませんか。



おいしいものをつか
地産地消ガイドブック

時を超えた景色、 未来へつなぐ



多くの人で賑わう戸塚区の名所「柏尾川桜並木」には長い歴史があります。それは、戸塚の桜をすつと残したいと思う、たくさんの人によつてつなげてきました。SDGsに通じる持続可能な想いは、柏尾川の桜並木とともに、戸塚に住む人々の心に古くから浸透しています。私たちの祖先が紡いできたこの景色を、未来に残していくことは、SDGsの理念と重なります。

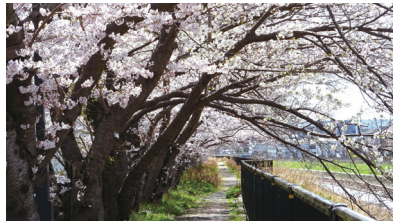


桜は戸塚区のシンボルとして、「区の花」に指定しています。柏尾川の桜並木は江戸時代の安政3年(1856年)に植樹されたことが始まりとされています。その後、明治後期の耕地整理で全て伐採されましたが、堤防工事の竣工を記念して明治43年(1910年)に桜が植樹されました。昭和初期には関東屈指の桜の名所として名を馳せましたが、その桜も第二次世界大戦中、燃料として伐採され、全滅してしまいました。

終戦後、昭和28年に有志が中心となり、資金を出し合つてソメイヨシノ2000本を植樹しました。その後、昭和50年代に行われた堤防改修工事で、伐採と植樹を繰り返し、平成に入ると、老齢化した桜の植替えが行われるなど、柏尾川の桜は何度も全滅の危機を区民の皆様と共に乗り越え、現在に至っています。

現存する約350本の桜の多くは、昭和の時代に植樹されたものであり、老齢化や病害等により、樹勢の低下や倒木、枝折れ等が懸念されています。

戸塚区では、令和6年度から桜の保全・再生に向けて検討を始め、「柏尾川桜並木」を将来に引き継いでいきます。



あなたの
my
SDGs
を見つけよう。



戸塚区のマスコット
「ウナシー」



発行日：2024年3月

発行者：戸塚区役所区政推進課 〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17

TEL：045-866-8327 FAX：045-862-3054



本冊子は、FSC®森林認証紙、ノンVOCインキ(石油系溶剤0%)を使用し、グリーンプリンティング認定工場で印刷するなど、環境に配慮された印刷物です。